



美術センター
久我記念館

9月企画展 12日(火)~30日(土)

(月曜休館・祝日の場合は翌日休館・入館無料)

白木 恵美子

『Macro cosmo micro cosmo - 白木 恵美子』展

9月の久我記念館企画展は、志免町在住の白木恵美子さんの個展です。日ごろ見慣れた日常の生活その景色に、心の情景を重ね合わせながら創作活動をなさっています。

個展のテーマは“Macro cosmo micro cosmo (マクロコスモ ミクロコスモ)”です。自分の周りに果てなく広がる世界。自分の中にある小さな世界。両方の世界を絵画で表現しています。

展覧会についての白木さんのメッセージです。

「現代美術その表現を探りそして絵画、伝統芸術を学び

日頃感じる事、風、草木花…土、水、空

太陽の光…自分という生命

すべての命を等しく感じる瞬間

外側にあるはてしなく大きな世界

そして私の中にある小さく小さな世界…

変わりゆく事、変わらない物 目に見える事

目に見えない物 真空の中にある

その真実を信じて信じたくて生きるその表現 Identity」



Macro cosmo Micro cosmo



福岡市中央区大名の“OHKU INTERNATIONAL”
壁画制作中の1コマ

8月の企画展

田原 ウーコ 展

8月5日(土)~31日(木)

(月曜、13~15日休館・入場無料)

河下千晴さんが 油彩画3点を寄贈

「ふるさとで個展ができるとは思いませんでした。ありがとうございました…」と、町立美術センター久我記念館で、油彩画展を開いていた河下千晴さん(福岡市西区)が、6月25日、展示作品の中から、油彩画3点(F100号2点・F30号1点)を中嶋町長に寄贈されました。

同展は、6月3日から25日まで開かれたもので、作品はヒマワリやバラの花などを中心とした油彩画約70点が会場いっぱいに展示され、期間中の入館者は、今年度最高の1081人を記録しました。

入館者の感想ノートには「絵に努力とパワーを感じました。私ももうひとがんばりしようと勇気が湧いてきました…。」「絵はあまり分かりませんが、やさしさと力強さにあふれていました。いいものを見せていただきました。ありがとう…」などと記され好評でした。

個展を終えた河下さんは、「たくさんの人に見てもらえてよかったです。今回、なによりもうれしかったのは、激励の意味だとは思いますが、恩師の舟木富治先生から



「画家」の呼称をいただいたことです。これからも精進します。」と話されていました。

また、この日寄贈された作品は、役場や小学校などに展示することになっています。



考古学

13

町指定無形民俗文化財 上須恵祇園山笠の起源に迫る

今回は、上須恵の祇園山笠にまつわる話です。お祭りも文化財の対象(無形民俗文化財といいますが)として調査研究を行っています。

上須恵の祇園山笠は保存会が発足して今年で30周年を迎えました。7月の福岡を象徴する山笠ですが、上須恵の山笠はいつ始まったのでしょうか？
この山笠は約250年前に始まると伝えられています。当時、



昭和50年代前半の山笠の光景
(上須恵皿山付近)

須恵に疫病が流行したため、退散を祈願して祇園祭を行い、以降、疫病が収まったので毎年行うようになったという説があります。また、黒田藩の御典医で須恵出身の田原養全の提唱により始まったともいわれています。
昭和15(1940)年に書かれた須賀神社に関する資料が資料館に残っています。この中で祇園山笠は、「その由来は分からないが、現在生きているお年寄りが、自分の祖父より山笠の事を聞いたことがあると言っていることから、山笠の歴史は古いことは確かである。」と述べられています。
このことから、残念ながら年代を特定することはできませんでしたが、祇園山笠は江戸時代には既に存在していたことが想像できます。
(啓)